

<今回>191回目 2016年7月4(月)16時~18時 1503号室
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」6P安易な原文改定 より

<前回>190回目(16-6-24) 出席者10名
資料 16-06-24-1 前回のまとめ(清水)
-2 日程表(清水)
-3 資料集(古代は霧の中から)
-4 古代は霧の中からの読后感想文(清水)

A 報告

富川さんが参加してくれた。知らない方も多いが平均レベルが上がったと思うと嬉しい。「古代は霧の中から」を読み終えたので、今日から「邪馬壹国の論理」を読み始める事になった。

津多家で会食9名、15103円(1500円・2人+1600円7名) —903円

B 資料 -2) 日程表は年末まで確保。8月8日は4時間と長いので、富川さんに小一時間(富川さんが現在興味を持っておられるテーマなど)お話を伺いたいと希望を伝えた。-3)は「古代は霧の中から」の読書会の資料集、1部ずつ保存してあるので、必要があれば言って下さい。-4)は読后感想文、要約のようなもの。

C 読書「邪馬壹国の論理」カバー裏の刊行のことば から

- 1) ミネルヴァ書房の決意 科学としての古代史を標榜する限り公正でないと古代史学会を批判している。
- 2) はしがき 復刊にあたって ①朝日新聞大阪本社出版局次長の田中明氏から題名は「邪馬壹国の論理」と初めから決めていきますと云われた。②京大学術誌「史林」に尾崎雄二郎氏、牧健二氏から「邪馬壹国の諸問題」として批判文が掲載された。当時の京大の学問的対応の公正さを如実に示している。批判、再批判共。
- 3) 榎一雄氏との読売新聞紙上での一五回の論戦と再批判(10回)は再反論をみないままに終わった。その後の古田説無視の大勢は実質上は古田説肯定の別表現なのかもしれぬと言っている。
- 4) はじめに 論理の導く所に行こうではないか、例えそれが何処であろうとも。現実には唯一夢によって導かれたと書いていた。(これはいわゆる夢告のことではない。)真実を究めようと現実には不可能(夢)と思われている事でも努力を積み重ねて実現しようとしたとの意味である。これは第4番目の本である。この数年間の学会との戦いの跡という。高木氏の推理小説神津恭介氏への挑戦状、盗用問題。誰をも驚かせた3世紀の倭人の南米航行という帰結。海賦の解説、エバンズ夫妻との手紙も掲載できた。と喜んでいる。
- 5) 目次 I からV を通読
- 6) 本文 I 戦後古代史学への疑問 造作ではない記紀神話 国生み神話の洲は島ではなくて国と理解する。トヨノアキツクニ=豊国の安岐津(別府湾)。分布図を書けば武器形青銅器祭祀圏を背景とした古代地図を表している。支離滅裂な後代の造作物ではない。筑紫を原点とした淡路島以西の政治地図である。
- 7) 津田史学のはらむ方法上の脆弱性 記紀の矛盾を突き、否定的にとらえようとする。記紀は古代人の認識の表現である。古代人の意識内容を再現し、正確に再認識しなければならない。現代常識と矛盾する根本的なもの、たとえば2倍年暦、人の能力を越えた不可思議な人物の登場、これらから神話・伝説を文学的に理解しようとして史的・科学的理解から目をそむけたことである。

次回日程 2016-7-4(月) 16時~18時 1503号室
-7-15(金) 16時~18時1503号室
-8-8(月) 14時~18時 302号室